

2025年9月17日
株式会社SVPジャパン

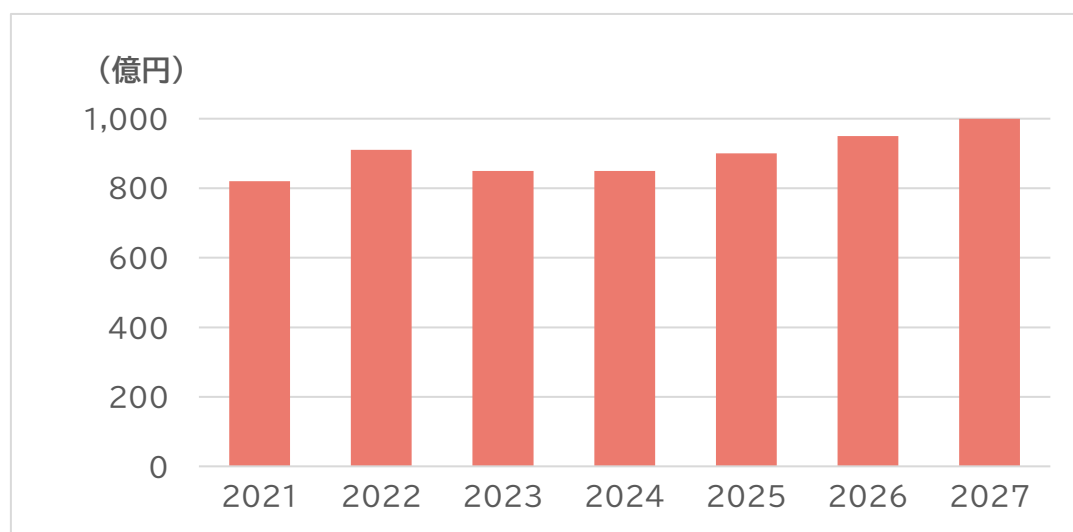
SVP注目市場分析 「レーザー加工機」を公開

～加工技術の進化と様々な産業で需要拡大が期待される～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「レーザー加工機-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■レーザー加工機の国内市場



レーザー加工機市場は、工作機械への投資動向に大きく左右されるが、近年は板金や自動車、電子部品といった幅広い産業への応用拡大が進んでいる。2023年は電機・電子や自動車産業の需要低迷によりマイナス成長、2024年は横ばい推移となったが、2025年に入り、持ち直しの兆しが見られている。2024年の市場規模は約850億円と推定され、今後は年間5%程度のプラス成長が見込まれ、2027年には1,000億円に達すると予測される。とりわけ、CO2レーザーから高精度・高速で加工できるファイバーレーザーへの移行が進んでおり、省エネ性や加工精度を背景に採用が加速している。電子部品の微細加工や自動車用高強度鋼板といった新素材対応、さらには医療機器製造など成長性の高い分野での活用拡大が期待され、技術進展と市場需要の両面から長期的な成長ポテンシャルが高い。

■レーザー加工機の市場概況

国内市場の用途別構成では、切断・切削が約60%を占め、次いで溶接が続く。製品面では、CO2レーザーからファイバーレーザーへのシフトが進み、従来の板金加工に加え、3次元加工やミクロン単位の微細加工など用途が拡大している。市場競争では、アマダと三菱電機が高いシェアを維持し、ドイツのトルンプも強固な地位を築いている。特にアマダはファイバーレーザー発振器の自社開発を強みに多様な産業に展開、三菱電機はプリント基板用レーザーで圧倒的な優位性を確立している。今後は、電子部品の小型化や自動車の電動化といった産業構造変化がレーザー加工機需要をさらに押し上げるとみられる。国内メーカーにとっては、エネルギー効率や精密加工性能を武器に、新素材や医療機器など新領域への拡大を進めることが成長戦略の要となる。



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購読いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

10月のテーマは「3Dプリンター」と「3Dプリンター材料」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com